

8月の衛研検査情報

～トピックス～

横浜市における2013/2014シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析

横浜市における2013/2014シーズンのインフルエンザの流行は、山形系統のB型ウイルス（47.9%）、AH1pdm09ウイルス（29.1%）、ビクトリア系統のB型ウイルス（13.6%）、AH3型ウイルス（9.4%）の混合主流でした。

15歳以下の年齢ではB型が、成人ではAH1pdm09ウイルスの占める割合が多くみられました。

主な結果 AH1pdm09ウイルスの抗原性状は、ワクチン株と類似していました。HA系統樹解析では、これまでのクレード7からクレード6に移行しました。入院サーベイランスではAH1pdm09ウイルスの割合が多く、肺炎や脳症等重症例が目立ちました。

B型ウイルスの抗原性状は、山形系統・ビクトリア系統ともワクチン株やレファレンス株とほぼ同等でした。HA系統樹解析では、山形系統はクレード2とクレード3に、ビクトリア系統はクレード1Aに含まれました。NA系統樹解析では、山形系統とビクトリア系統のウイルスが交雑したリアソータント株が2株検出され、アミノ酸が1つ挿入されたビクトリア系統のウイルスが3株検出されました。

AH3型ウイルスの抗原性状は、ワクチン株と類似していました。HA系統樹解析ではワクチン株と同じサブクレード3Cに含まれ、その中でもサブクレード3C.3が多数を占めました。

抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスでは、AH1pdm09ウイルスで薬剤投与歴のある患者から耐性株（感受性株とのミックスを含む）が4株検出されましたが、耐性株による地域流行はみられませんでした。B型ウイルスでは、山形系統のウイルスでノイラミニダーゼ阻害薬4剤（タミフル、ラピアクタ、リレンザ、イナビル）に対して薬剤感受性が低下した株が5株検出されました。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、薬事情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成26年7月は、クロストリジウム-ディフィシル感染症、B群レンサ球菌(GBS)感染症、サイトメガロウイルス感染症に関するページのアクセスが多くみられ、総件数は150,692件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。